

の餘裕ある高給社員と同率の道連れとして何等の理解も豫告もなく疾風迅雷的に吾々の航海手當を半減せんとする會社の非人道的處置に對し悲憤慷慨其絶頂に達した本組合に於ても亦之を以て事態容易ならずとし深甚なる注意を拂ふて其真相を監視することにした。

其後日を経るに隨ひ前記の新聞記事が愈々事實に相違なきことが明白になつて來たので到底此儘に捨て置くべきものにあらずとし神戸碇泊中の同社船

榛名丸、讚岐丸、ダーカー丸、賀茂丸、若狹丸、近江丸、富山丸
函館丸、武豊丸、リマ丸、

の代表者は二十六日夜市内湊東俱樂部に會議を開き航海手當半減に對し絶對反對の態度を以て左の決議を爲し之を本組合に移牒して來た

一、郵船今次の手當半減は吾人現在の生活に對し到底承認し得ざる

ものご認む

一、吾人は右手當半減の撤回を會社に要求す

一、交渉解決に關する一切の全權を舉げて日本海員組合に依頼す

右通牒に對し本組合に於ては二十七日常務員會を開き慎重審議の結果前記の決議事項を以て正當の要望なりと認め本件の交渉解決に關する一切の權限を引受くることに決定した其結果濱田副長代理は郵船本社に交渉の使命を帯びて二十八日神戸出帆の長崎丸に搭乗し横濱經由上京した然るに交渉數日に亘るも會社の態度頗る強硬にして今回の航海手當半減は決して減給に非ずして小使錢の減額に過ぎず今や大震災の損害の莫大なるに對し此位のごことは我慢出來ない筈はないとて絶對に之を容るゝの餘地なき形勢となりたるを以て止を得ず交換條件とし